

目指す学校像	「はじめに子どもありき」の教育 ○児童一人ひとりが輝く学校 ○保護者にとって通わせてよかった学校 ○地域にあってよかった学校 ○教職員にとって勤めてよかった学校
--------	--

重点目標	1 学びの自律と個別最適な学びによる確かな学力の育成 2 子どもが安心・安全に過ごせる教育環境の整備 3 学校・家庭・地域が目標やビジョンを共有し連携・協働する開かれた学校づくり 4 子どもに寄り添い、学び続ける教職員の資質向上
------	---

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標			年度評価				実施日令和7年2月21日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p>〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査結果では、全国、市平均と比べやや下回っている。</p> <p>〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査の結果分析から、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むこと」に課題があり、設問に対する無回答率が高い傾向がみられる。 ○読書習慣に関する項目では全国、市と比べ平均より上回っているものの学年差、個人差もみられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 一人一台端末の活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 	<p>①全国及び市の学習状況調査の結果を分析し、市教委による学力向上カウンセリング研修を受けることで、授業改善の視点や効果的な手立てを学年ごとに設定し、学校全体で主体的に学習に取り組む態度の育成を図る。</p> <p>②不読率の改善に向け、学校図書館等と連携を図り、朝読書をはじめとした読書活動を推進する。</p> <p>③各教科等のねらいの達成に向け、一人一台端末を積極的、効果的に活用した学習を推進する。</p>	<p>①学校自己評価に係るアンケートで「真剣な学び／進んで学習」への肯定的な回答が、95%以上。さらに、児童が行うワークテストの平均点が、90点以上。</p> <p>②読書環境を整備し、学校図書館の貸出冊数が、1人42冊以上。</p> <p>③ICT活用状況調査結果により、「ほぼ毎日活用している」への回答の割合が、50%以上。</p>	<p>①学力向上カウンセリング研修等の実施により授業改善に取り組むことで、学校自己評価に係るアンケートで肯定的な回答の割合が、87.6%となった。また、ワークテストの平均点が、84.6点となった。</p> <p>②図書ボランティアと連携し、朝読書や業間休みの読み聞かせなど学年の実態に応じた読書活動に取り組むことで1人39冊の貸出冊数となった。</p> <p>③ICT活用研修等の実施により端末の使用頻度が向上したことで児童アンケートの調査結果が、97%となった。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 市教委と連携し、児童一人ひとりの学力に応じた個別最適な学びの実現を図る授業改善に取り組むことで、児童の学力向上を図る。 児童が本に触れる機会を設定し読書に対する興味関心を高める取組や学校図書館の環境整備を通じて、発達段階に応じた読書活動の推進を図る。 エバンジェリストを中心に校内研修を充実させ、教職員のICT活用能力の向上に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な手立てをもって教職員が課題に対して取り組んでおり、やり抜く力が育ってきている。 本を読む活動はとても大切である。今後は、まったく読まない児童に対する手立てを講じていくとよい。 主体的に学びに向かえる児童をはぐくんでいくことが大切である。
2	<p>〈現状〉 ○学校自己評価に係るアンケートで「児童は友だちと仲よく生活していますか」への肯定的な回答が、95%近い値である。 ○施設の瑕疵等による児童の大きなけがは起こらなかったが、施設の老朽化が進んでいる。</p> <p>〈課題〉 ○児童一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に対応・支援をしていく。 ○事故防止に向け、施設の点検を定期的を実施し、危険な箇所の修繕を進め、安心・安全な教育環境を維持していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内支援体制の充実 施設・設備における安全管理の徹底 	<p>①教育相談事例研修やケース会議等による組織的な対応を充実させ、おはようメーターや心と生活のアンケート、にこにこ相談日等を実施し、面談等の記録を蓄積して、継続的に把握できるよう児童理解に努める。</p> <p>②チェックシートを活用して点検項目の共通理解を図り、毎月の安全点検を実施する。管理職が毎日点検を行い、危険箇所や修繕箇所を早期発見し、その都度関係機関と連携を図り、迅速な対応を行う。</p>	<p>①学校自己評価に係るアンケートで「教職員は、保護者や児童からの相談や要望に対して、誠実に対応していますか」への肯定的な回答が、児童は95%以上、保護者は98%以上。</p> <p>②危険・修繕箇所の発見から対策を立て、1か月以内に改善に向けた対応を実施することができたか。</p>	<p>①深い児童理解と心のサポート体制を充実させ、学校内外の連携に基づく組織的な対応をすることで、学校自己評価に係るアンケートで肯定的な回答の割合が、児童92%、保護者95%となった。</p> <p>②管理職による毎日の校内巡視中と全教職員による毎月の安全点検を実施した。樹木剪定や遊具、給食室や空調機などの危険、修繕箇所を早期発見し学校予算または市教委への要望による解決を図った。施設の瑕疵等による児童の大きな事故は起こらなかった。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、SCやSSWをはじめ関係機関とのさらなる連携を深め、速かつ組織的な対応、児童や保護者との相談活動を行い、児童一人ひとりの気持ちに寄り添った教育的支援の充実を図る。 引き続き、老朽化した施設の修繕による環境整備と定期的かつ確実な安全点検を実施する。 児童が安心・安全に学校生活を送ることができるよう、必要に応じて教育委員会と連携を図り、教育環境の整備に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな問題もなく、児童も落ち着いていて、安心して通わせられる学校となっている。 施設の修繕、整備について迅速に対応できている。
3	<p>〈現状〉 ○学校運営協議会において、目指す児童の姿について熟議を積み重ね、自ら見出した課題の解決に向けて協働し、児童を地域全体で育てていくことを共有した。</p> <p>〈課題〉 ○HPに学校の教育活動や児童の様子を「日進小学校日記」として、積極的に発信していく。 ○学校運営協議会で共有した目指す児童の姿について周知し、保護者・地域とともに協働活動を進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> コミュニティ・スクールを通じた保護者・地域とのより一層の協働 	<p>①学校運営協議会や地域の会の情報を発信し、目指す児童の姿等を広く家庭や地域と共有できるようにする。</p> <p>②学校行事等について、学校に関わる人々がHP上で閲覧できるようにし、学校の教育活動や児童の成長に対する関心を高める。</p>	<p>①学校自己評価に係るアンケートで「保護者にとって通わせてよかった学校／この地域にあってよかった学校になっていると思いますか」へのA回答が、65%以上。</p> <p>②学校自己評価に係る保護者アンケートの回収率が、90%以上。さらに、HPにコミュニティ・スクールのページを新設し、年3回以上の更新。</p>	<p>①地域に信頼される学校づくりに向け、学校便りや懇談会等を利用して学校経営方針への理解を求めることで学校自己評価に係るアンケートで肯定的な回答の割合が、61%となった。</p> <p>②HPを活用した日進小学校日記(教育活動中の児童の様子)や安心メールにより積極的に情報発信した。学校自己評価に係る保護者アンケートの回収率が、90%となった。また、HPにコミュニティ・スクールのページを新設し、3回更新した。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 地域とともにある学校づくりを進めるために、児童参加型の学校運営協議会を開催し、目指す児童像の実現に向けて熟議を重ね、学校、家庭、地域の結びつきをより一層強める。 PTA、地域団体、主任児童委員等と連携を図り、学校支援ボランティア(地域の教育力)の活用をさらに充実させ、地域に根ざした信頼される学校づくりを進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校づくりをより推進していけるよう、学校、保護者、地域が連携を強めていくことが大切である。 登下校の安全について、連絡体制や見守り体制を整え、充実させる必要がある。
4	<p>〈現状〉 ○学校課題研究を中心に、ICTを活用した児童の主体的な学びの育成に取り組んでいる。 ○会議の精選やデジタル化、ペーパーレス化をはじめ、業務改善に取り組んでいる。</p> <p>〈課題〉 ○ICTの授業における活用について教職員間で取組に差がみられる。 ○時間外在校時間に個人差があり、学校業務の負担感や多忙感が教職員にみられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の指導力向上に向けた研修の充実 Well-Beingな職場環境の構築 	<p>①実践研究を各チームで深めるため、一人一台端末を活用した「学びのポイント(じ・し・ゃ・く)」の視点に基づく一人1研究授業を実施する。</p> <p>②働きやすい職場環境を構築するため、校務用端末を効果的に活用するなどして、校務のICT化による業務改善を推進する。</p>	<p>①児童が行う「学びの指標」アンケートの調査結果による平均値が、13.5ポイント以上。</p> <p>②学校自己評価に係る教職員アンケートで「勤めてよかった学校」への肯定的な回答が、95%以上。</p>	<p>①学びの指標に基づく学習活動を工夫し、ICTの活用による授業力向上に取り組み、一人1研究授業を実施することで、「学びの指標」アンケートの調査結果の平均値が、13.2ポイントとなった。</p> <p>②時間外在校時間の縮減に取り組み、教職員が健康で働きがいのある職場環境づくりに努め、学校自己評価に係る教職員アンケートで肯定的な回答の割合が、93%となった。</p>	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校課題研修を推進し、「学習者が主体的に学ぶ授業」という視点に基づく授業改善を図り、一人一台端末を有効活用した主体的・対話的で深い学びのある授業を実践する。 教職員が毎日元気に子どもと向き合える職場環境の充実に向け、引き続きクラウドによる校務を推進しペーパーレス化をはじめとした業務改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 充実した学習を行うために、教職員は一方向で考えるのではなく、多面的・多角的に捉えられるようにするとよい。 教員間の指導による格差をなくせるよう、研修や支援の体制を整える。